

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(12月18日～12月24日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。12月18日から12月24日までに7783件の検査がおこなわれました。基準を超えたものはありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(12月18日～12月24日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島 県	農産物	50	0	—	栃 木 県	農産物	54	0	—
	畜産物	412	0	—		畜産物	549	0	—
	水産物	224	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	10	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	67	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮 城 県	農産物	5	0	—	群 馬 県	農産物	14	0	—
	畜産物	205	0	—		畜産物	742	0	—
	水産物	11	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	1	0	—		牛乳乳児用食品	2	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	3	0	—
茨 城 県	農産物	36	0	—	千 葉 県	農産物	32	0	—
	畜産物	730	0	—		畜産物	157	0	—
	水産物	59	0	—		水産物	53	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	3	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	4	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 5月28日	95.1%	4.9%	0.0%
2017年 6月 4日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 6月11日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年 6月18日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 6月25日	99.4%	0.6%	0.0%
2017年 7月 2日	98.5%	1.5%	0.0%
2017年 7月 9日	99.1%	0.9%	0.0%
2017年 7月16日	97.7%	2.3%	0.0%
2017年 7月23日	98.3%	2.7%	0.0%
2017年 8月 6日	100%	0.0%	0.0%

2017年 8月13日	100%	0.0%	0.0%
2017年 8月27日	98.8%	1.2%	0.0%
2017年 9月 3日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%
2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2016年6月平均	(95.0%)	(5.0%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつきませんでした。これで130週連続(約2.5年)となります。福島県の214検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類は大熊町のババガレイ(8.6 ベクレル/キログラム)ヒラメ(10 ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

この週で、基準を超えたものはみつきませんでした。

(3)京都の空間線量(12月18日～12月24日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.039～0.042 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.046～0.050 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルト/1時間を下回るまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1)福島県の食へ意識に差 米国「安全」86%、韓国「心配」74%(福島民友ニュースより)

福島大経済経営学類は16日、学生が米国や韓国などで学んだ食文化や福島に関するアンケート結果を発表する「ワールドキッチン 私たちが見た世界の食文化」を福島市で開いた。「福島食品は安全だと思うか」の質問では、米国で「はい」が86%に上ったのに対し、韓国では「いいえ」が74%を占めるなど、各国で意識の差が顕著に表れた。

同学類創立95周年記念事業の一環で、同大国際交流センターの共催。夏にゼミや語学研修で米国やベトナム、中国、ロシア、韓国の5カ国を訪れた学生約40人が、「食」をテーマに学んだことを発表した。

アンケートは5カ国の計約660人の学生を対象に行われ、本県の食材についての知識や印象などを聞いた。中国では、本県が東日本大震災で被災し、県産食品が市場に出る前に検査を受けていることについて知っ

ている割合が他国に比べ高かったものの、「福島食品は安全だと思うか」の質問での「はい」は10%にとどまった。

同大は今後、学生の調査結果を分析する方針。米国を訪れた五十嵐夏生さん(2年)は「震災による被害そのものを知らない人も多く、驚いた。まずは何が起きたのか知ってもらい、その上で現状を知ってもらう必要がある」と述べ、海外への情報発信の重要性を強調した。

以上